

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日：7月23日(水)

会場：粟屋コミュニティセンター

参加者数：15人

◎テーマ①：質を重視した付加価値の高い観光資源

【趣旨説明(粟屋町づくり協議会)】

高谷山は、遠くを眺めることができる素晴らしい名所であり、「霧の海」は非常に幻想的であるが、季節や天候に左右される不安定な観光資源でもある。かつて高谷山にあったキャンプ場や炊事場は廃止されたが、今でもコミュニティセンターに問い合わせがある。1年を通してアピールすることもいいのではないか。しかし、クマ、イノシシやシカなどの危険もあることから、車中泊も可能にしてはどうか。高谷山に関わる観光施設の整備について意見交換をしたい。

参加者の発言	市の発言	備考
<p>・今年6月に、粟屋小学校5、6年生の子どもたちと一緒に高谷山に登った。霧の海だけでなく、ささゆりの群生、山頂の三角点(491m、展望台より18m低い)、展望台、巴橋から見える三つの川が合流する「巴」の景色、福藤太鼓店の太鼓の絵柄など、多様な魅力を小学生に紹介した。高谷山山頂の三角点の場所が分かりにくいので、案内標識を設置してほしい。</p> <p>・観光客が増える中で、炊飯棟があった跡地を市道の高さまで埋め立てて、駐車場を拡充してほしい。</p>	<p>・高谷山や霧の海は、粟屋地区に欠かせない地域資源である。地域の子どもたちと一緒に展望台に登ることをはじめ、ささゆり等の資源を観察するなどの体験メニューの作成・実施をしていたしており、感謝を申し上げる。</p> <p>・多くの皆さんが、高谷山に興味を持っており、今後のやり方によっては、更なる観光振興に結びつくものと考えている。特に、高谷山の霧の海は幻想的で魅力的であり、毎年秋口に全国ニュースで取り上げられている。今後は、霧の海だけでなく、ワイナリー、平田観光農園の果物狩りや三良坂の食を楽しむツアーなど、他の資源と組み合わせた付加価値の高いツアー開発を、みよしDMO(三次観光推進機構)とともに検討したい。秋口から来年の春にかけて、約半年間、楽しむことができる絶景であり、多くの皆さんに来ていただけるような仕掛けを検討していきたい。また、SNSなどを活用し、全世界へ魅力を発信していくことも考える。</p>	
<p>霧の海展望台は素晴らしい観光資源であり、道路整備してほしい。霧の海とワイナリーをツアーのセットにした場合、市内のホテルに宿泊することになるが、展望台へ向かう市道が狭く、木々が張り出しており、大型バスが通りにくい。観光客が安全かつ快適にアクセスできるよう、インフラ整備もセットで進めてほしい。特に、高北広域農道は重要な路線であるが、そこから小さな道に入ると、自動車も通行しにくいので、道路や山林の整備と一緒に観光振興を考えてほしい。</p>	<p>毎年、高谷山展望台に登っているが、アクセス道路の整備については課題と認識している。市では、展望台周辺の駐車場を整備するとともに、部分的な待避所をつくっているが、抜本的な解決策を講じることができていない。展望台にはどこから入るのかと迷われる方もいる。財源は限られるが、多くの人が安全に訪れることができるように、できることから環境整備を進めていきたい。</p>	

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日：7月23日(水)

会場：粟屋コミュニティセンター

参加者数：15人

◎テーマ②：地域で支える医療体制づくり

【趣旨説明(粟屋町づくり協議会)】

高齢化や免許返納により、地域の高齢者は通院の手段に苦慮している。タクシーは高額で、相乗りタクシーは時間や診療料が合わず利用しにくい。かかりつけの医師や歯科医師を見つける自己努力も必要であるが、医師不足や診療報酬の問題で、往診や訪問診療も限られているのが実態である。これは粟屋地区だけの問題ではないため、市行政が中心となり、医師会など関係団体と協働して、周辺部全体の課題として解決に取り組んでほしい。また、地域実態をよく把握していただきたい。

参加者の発言	市の発言	備考
JRとの協議で、旧JR三江線の駅舎などを地元で活用してもいいという覚書がある。しかし、観光客が訪れても、階段に「立入禁止」の看板があり、ホームに入れない状況である。市がJRと協議し、看板を撤去して、歴史的価値がある駅舎を地域資産として保存・活用できるようにしてほしい。これは覚書の範囲内で行えることである。観光客もよく来るので、見せてあげたい。	覚書があるため駅舎はすぐに壊されることはないと思う。看板の撤去については、JRの立会いのもと、現地確認を含めて、検討が必要となる。担当課に内容を伝え、JRとの協議を含め、どのような対応が可能か検討・返答させていただく。	【発言者へ回答】 JRへ連絡を取り、市とJRの貸借契約終了時に地元で原状回復することを条件として撤去可を確認。常会内で情報共有し、看板を撤去し保管。
高齢者の交通手段であるバスの待合所がない。待合所がなければ、ガードレールの前で待つことになり、危険である。折り畳み椅子を置ける程度の簡単な待合所を設置してほしい。最近では、地域から市立三次中央病院に行くお客さんが増えているような気がする。高校生も利用している。	利用状況を含めて、現在は難しい。旧JR三江線の代替バスについては、安芸高田市とも連携して運行している。バス停の待合所についてはこれまでも要望をいただいております。現地確認をしている。利用状況も含め、現段階での設置は難しいが、安芸高田市とも協議し、改善できるところは検討したい。	
健康診断の申込みについて、今年から導入された電話予約(フリーダイヤル)が全くつながらない。数日電話をかけ続けてやっとつながった。つながりにくいフリーダイヤルではなく、市役所内の回線にするなど、改善してほしい。	・導入初年度で回線が混み合い、大変ご迷惑をかけた。来年度に向けて課題を整理し、改善に努める。Web予約のサポート機能もあり、来年はより簡単に予約できるようになる見込みである。 ・地域医療体制について、市では、医師会、歯科医師会や薬剤師会と連携して、医療資源の確保と有効活用を図っている。庄原市とも連携した備北メディカルネットワークでは、医療従事者の確保・育成、地域包括ケアの推進、診療材料などの共同購入、共同研修による仕組みづくりなどに取り組んでいる。 ・高齢者人口は増える一方で、人口は減少していることから、住み慣れた地域で安心して住み続けるためには、地域のみならず支え合うことが大事になってくる。住民、行政、地域包括支援センター、介護事業者、そして医療機関などが一体となって支え合う「地域包括ケアシステム」の推進が重要である。粟屋地区で進められている地域ケア会議などを活用し、つながることを大切にしていいただき、引き続き支え合いの仕組みづくりに取り組んでほしい。	
消防団では、AEDなどを用いた蘇生措置に関する講習を受けている。この地域で支える医療体制づくりの一部にもなっている。消防団だけでは人数が限られており、こうした講習を地域住民にも広げること、いざという時の初期対応ができる体制を強化してほしい。	・地域ケア会議の場で、住民自治組織が消防署に依頼され、AED講習を主催されることも一つの方法だと思う。いざという時のためには研修が必要である。 ・AED講習会が非常に大事であると同時に、AEDがどこに設置されているかという情報を積極的に周知することが重要である。講習を受けた人がすぐに行動に移せるよう、周知を強化していく。	
医療体制の構築について、プライバシーの観点から、医療情報や年齢情報を地域へ配ることはできない。高齢者の年齢は各地区に情報提供されているはずであり、地域ができる範囲内で、ケアしていく取組ができればと思う。	地域ケア会議では、個人情報の取扱いが重要であり問題になることもある。個人を特定せず具体例を出してその地域の課題を洗い出していく方が望ましい。地域ケア会議では個人情報を扱わないルールであり、気になる高齢者がいれば、地域包括支援センターの担当者が対応していくため、具体例を個別に教えていただきたい。	
バスが通らない地域では、高齢者や免許返納された方などのいざという時の移動手段としては救急車やタクシーしかない。介護タクシーの利用促進や、地域での見守り体制を強化してほしい。	民生委員が中心となって高齢者等の見守りを行っていただいている。介護タクシーについては、ほとんどタクシーと同じような料金設定になっている。以前は、福祉保健サービスの冊子の中に介護タクシー事業所の一覧が掲載されていたが今はない。介護タクシーの周知については関係部署とともに今後検討していく。	
連日暑い日が続いており、市内の公共施設やショッピングセンターなど「クーリングシェルター」として利用できる涼しい場所をもっと積極的に市民へ呼びかけてほしい。	連日猛暑が続く中、温暖化は私たちにとって脅威になりつつある。熱中症対策として、クーリングシェルターとなっている公共施設や民間施設について、音声告知放送など様々な媒体を活用し、周知に努めたい。なお、7月に入った直後には、音声告知放送で、熱中症予防について呼びかけをしたところである。	